

教員活動状況報告書

提出日：令和 5 年 3 月 7 日

所 属： 獣医学部 獣医学科

氏 名： 杉田和俊 職位：講師

役 職：

I ティーチング・ポートフォリオ

1. 教育の責任（教育活動の範囲）

（教育活動について何をやっているのか：役職担当・主要担当科目リスト（必修，選択）（受講者数）（学部向け，大学院向け）（學理データ活用）

教師として何に責任を負っているかを明確にし，自分が担当している授業科目に関して数行で説明する。（分量の目安：2～5 行（80 字～200 字）（科目表以外））

※分量（字数）はあくまで目安ですので，超えても構いません。内容を優先して下さい。（以下同じ）

記憶するより、理解できる講義や資料を提供する。そのためには、正確な事実に基づき平易な言い回しにより講義する必要があると考える。特に環境衛生分野や機器分析化学では専門用語なども多く、他の科目と内容が大きく異なることから、理解しやすい資料を提供することが重要であると考えている。

科目名	学科・専攻	必，選， 自	配当年次	受講者数
獣医公衆衛生学Ⅲ(環境衛生)	獣医学科	必須	4 年	140
獣医公衆衛生学実習Ⅱ	獣医学科	必須	4 年	140
公衆衛生学	動物応用科学科	選択	4 年	70 名
機器分析化学	動物応用科学科	選択	3 年	70 名
毒性学-機器分析実習	動物応用科学科	選択	3 年	70 名
環境計量学・同演習	環境科学科	選択	4 年	5 名
専門学外実習	獣医学科	必須	5 年	140 名

2. 教育の理念（育てたい学生像，あり方，信念）

1. で説明した教育面での責任を基にしながら自分の教育理念に基づいて自分の教育アプローチについてまとめる。（自分の教育アプローチの説明：なぜやっているのか，自らの信念，価値，目指すもの）（分量の目安：8～12 行（320 字～480 字））

獣医学科の学生には国家試験対策としての知識を蓄積・整理すること、及び有機的な事象の繋がりを考えさせることを目的としている。特に実習では、実際に検査や測定を行うことで、原理などを理解し、失敗も含め印象付けることで国家試験対策にも繋がりたい。動物応用科学科及び環境学科の学生に対して就職支援のために技術の原理を習得してもらうことを主な目的としている。特に動物応用科学科で講義・実習している機器分析では、実際の食品や環境の評価方法やその原理について習得し、化学分析(機器分析)を評価ツールと

して利用し、就職支援を目的としている

3. 教育の方法（理念を実現するための考え方，方法）

教育の目的と目標（これまでの教育経験においていつも行っていること。重要視していること。自分の教育を特徴づける方法）（分量の目安：15～24行（600字～960字））

講義で念頭においていることは、理解しやすい講義・資料を提供することである。なるべく身近な事例をあげ、「覚える」というよりは「わかる」といった内容を心掛けている。そのため、小テストを取り入れ、ポイントを明確にし、理解度を本人に認識させることにより、復習を促した。

アクティブラーニングについての取組

獣医公衆衛生学、公衆衛生学では基礎的情報として覚えることが多く、対応していない。また機器分析については、機器分析実習で対応している。

ICTの教育への活用

原則、対面講義とし、必要に応じてオンデマンドの講義を取り入れている。また、レポートなどにはWeb利用し、有効かつ最新のレポートを期待している。

4. 教育方法の改善の取組（授業改善の活動）（分量の目安：15～24行（600字～960字））

現在の授業実践・教授手法をどのように改善していますか。

（①から⑤まで個別に記載又は①から⑤までまとめて記載ください）

①教育（授業，実習）の創意工夫（A～C）

B：

②学生の理解度の把握（A～C）

B：小テストの実施

③学生の自学自習を促すための工夫（A～C）

C：

④学生とのコミュニケーション(質問への対応等)（A～C）

B：必要に応じて対応しているものの、積極的なコミュニケーションは取れていない

⑤双方向授業への工夫（A～C）

C：受講者の興味に対応するような、質問などが浮かばない

※A（十分実施している）B（実施しているが十分でない）C（うまく取り組めていない）

⑥国家試験対策としてどのような取組をしましたか。（V 学科，M 学科の教員の方のみ記載してください。）

過去問を参考に、実習の試験では写真などを多用した

5. 学生授業評価（分量の目安：4～7行（160字～280字））

①授業評価の結果をどのように授業に反映させましたか。
タイムリーな対応はできていないと思う。

②①の結果はどうでしたか。

③②を踏まえて次年度はどのように取組めますか。

授業評価を念頭に講義、実習に取り組む

6. 学生の学修成果（分量の目安：4～7行（160字～280字））

①学生の成績向上に資する取組を何か考えていますか。

（参考となる取組については、学内で共有させていただく予定です。）
印象に残る資料を提供する：講義では写真や実習では実物を用いる

②教育活動によって得られた学生の成果及び学生・第三者からの評価

7. 指導力向上のための取組（FD 研究会参加状況）（分量の目安：1～2行（40字～80字））

基本参加している

8. 今後の目標（理念の実現に向かう今後のマイルストーン）

教育活動に関する今後の目標を記載してください。短期的な目標と長期的な目標を分けて記載してもかまいません。（分量の目安：3～6行（120字～240字））

わかりやすい授業・印象に残る実習を心がける

理解度をこまめに把握する

必要に応じて、繰り返し小テストなどで印象付ける

9. 添付資料（根拠資料）（※）資料名のみ

※資料については非公開扱いのものもありますので、資料名のみを記載してください。

・授業資料、小テスト

参考

※ ティーチング・ポートフォリオにおける自己記述を裏付けるエビデンス例

(「実践ティーチング・ポートフォリオ スタータブック」(大阪府立大学高専ティーチング・ポートフォリオ研究会 編)から引用)

(自ら作成するもの)

1. 授業に関するもの

シラバス, 小テスト, 宿題, レポート課題, 試験問題, 教材(配布資料, パワーポイント資料など)

2. 教育改善に関するもの

(教育に直接貢献する研究, FD プログラムなどへの参加記録, 教育の工夫を示すもの(複数年のシラバス等), 教育活動関連の補助金の獲得)

(他者から提供されるもの)

1. 学生から

授業評価データ, 授業に関するコメント(授業評価の自由記述やメールのやりとり等), 卒業生から授業や教育についてのコメント

2. 同僚から

授業参観の講評, 作成教材についての意見, 同僚のサポート実績

3. 大学/学会等から

教育に関する表彰, 教育手法等に関する講演の記録及び招聘の要請書類, カリキュラムやコースの設計などについての評価

(教育/学習の成果)

授業科目受講前と受講後の試験成績の変化, 学生の小論文・報告書, 学生のレポートの「優秀」「平均的」「平均以下」の例, 特に優秀な学生についての記録, 指導学生の学会発表などの成果, 学生の進路選択への影響についての事実, 学生のレポートの改善の軌跡